

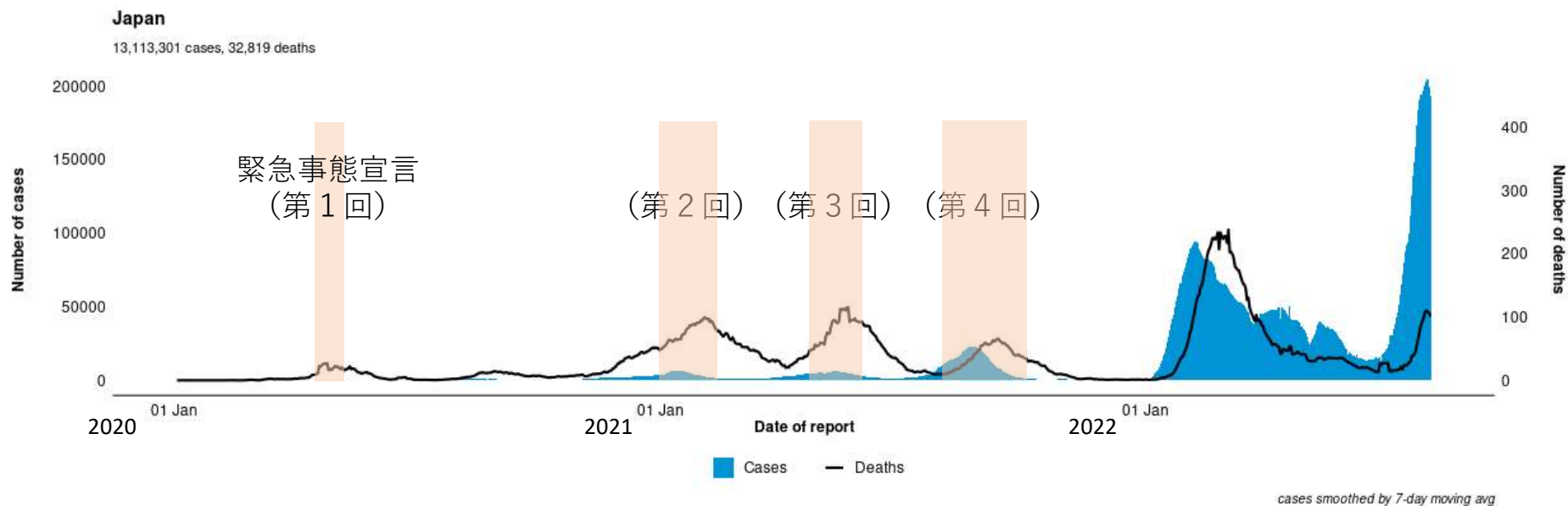
第81回がん対策推進協議会	資料7
令和4年9月5日	

# 新型コロナウイルス感染症による がん検診及びがん診療などへの影響

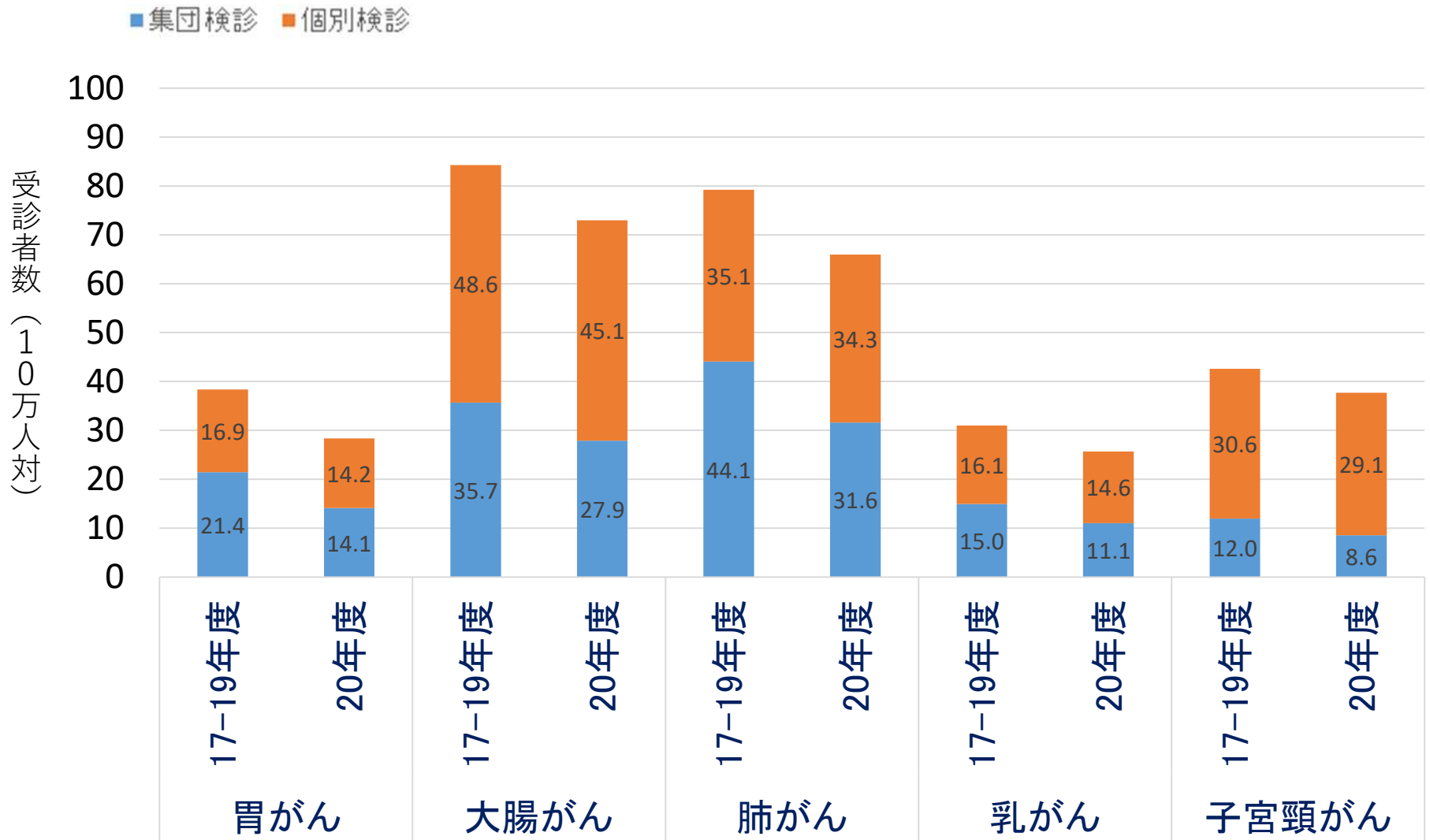
厚生労働行政推進調査費補助金がん対策推進総合研究事業  
「新型コロナウイルス感染症によるがん診療及びがん検診などの  
受診状況の変化及び健康影響の解明にむけた研究」

国立がん研究センターがん対策研究所 高橋宏和

# 日本のCOVID-19感染者数および死亡者数の推移



# がん検診受診者数の推移（地域保健・健康増進事業報告）



（エックス線40歳～＋内視鏡50歳～）

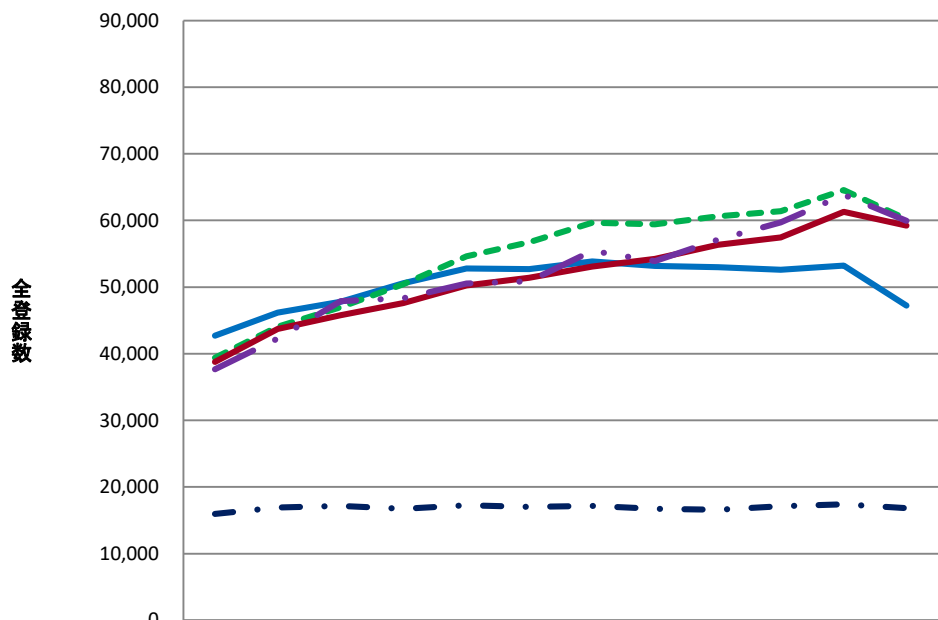
## がん検診受診者数への影響（地域保健・健康増進事業報告）

- 2020年度は、2017-2019年度平均と比べ、5つのがん種において受診者数はおよそ1-3割減少
- 個別検診と比べ、集団検診の減少幅がより大きい
- 胃がん検診が最も減少

# がん診療連携拠点病院等におけるがん種別がん登録数の推移

## 男性

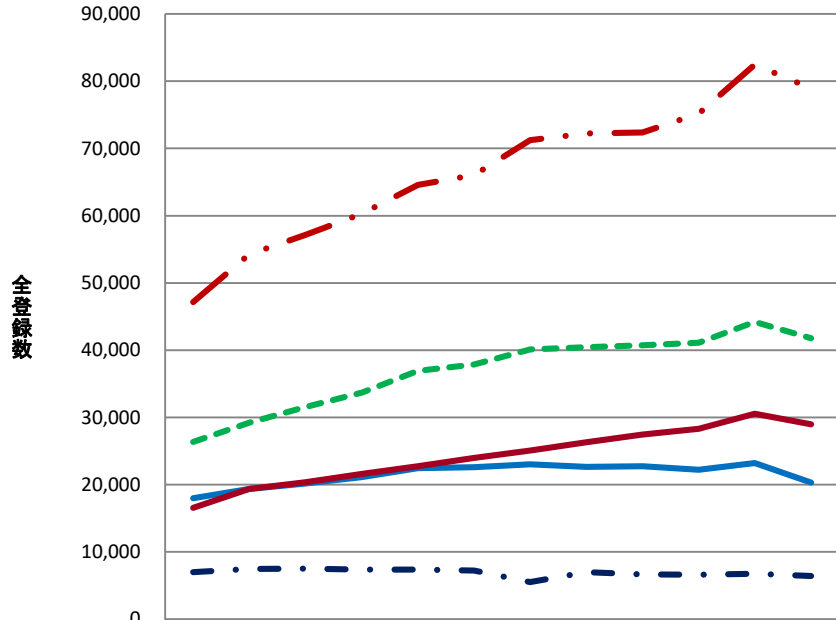
(人)



	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
胃	42,690	46,147	47,772	50,562	52,807	52,702	53,839	53,195	52,988	52,585	53,238	47,220
大腸	39,370	44,066	46,959	50,445	54,601	56,712	59,678	59,405	60,627	61,372	64,569	60,188
肝臓	15,981	16,929	17,178	16,749	17,266	17,036	17,148	16,731	16,561	17,092	17,386	16,826
肺	38,786	43,736	45,799	47,585	50,255	51,420	53,074	54,207	56,353	57,463	61,272	59,239
前立腺	37,658	42,256	47,874	48,341	50,527	50,846	55,424	53,916	57,111	59,705	63,846	59,938

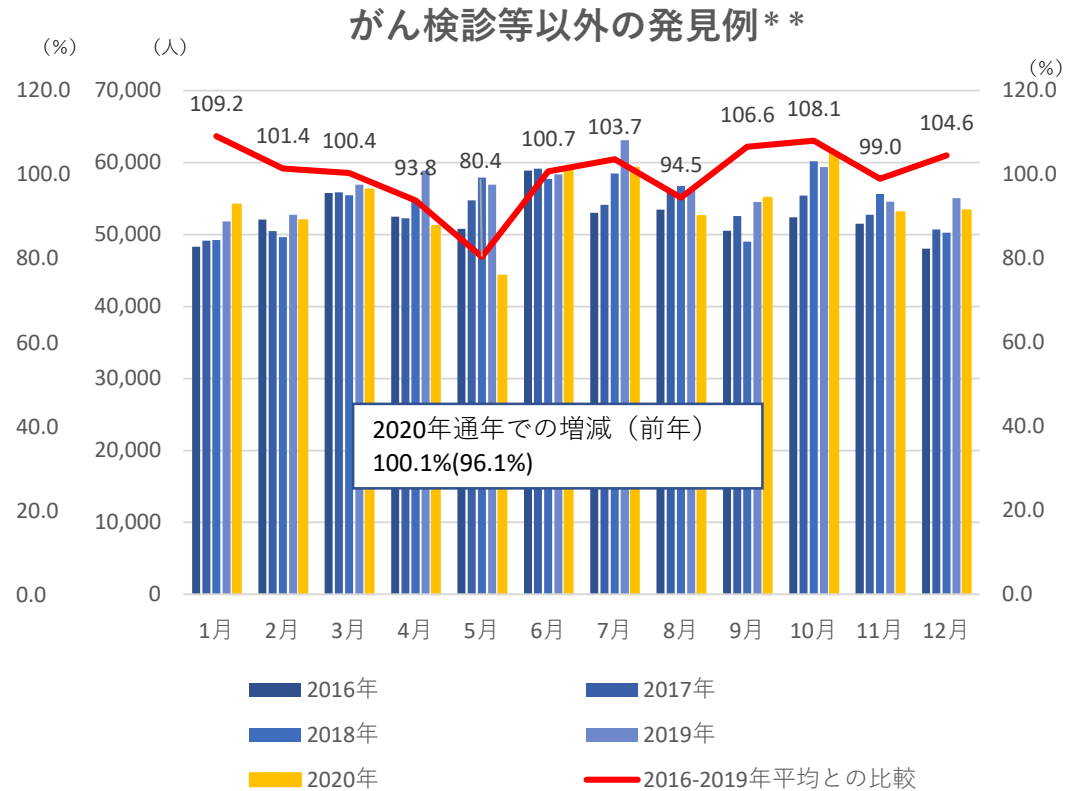
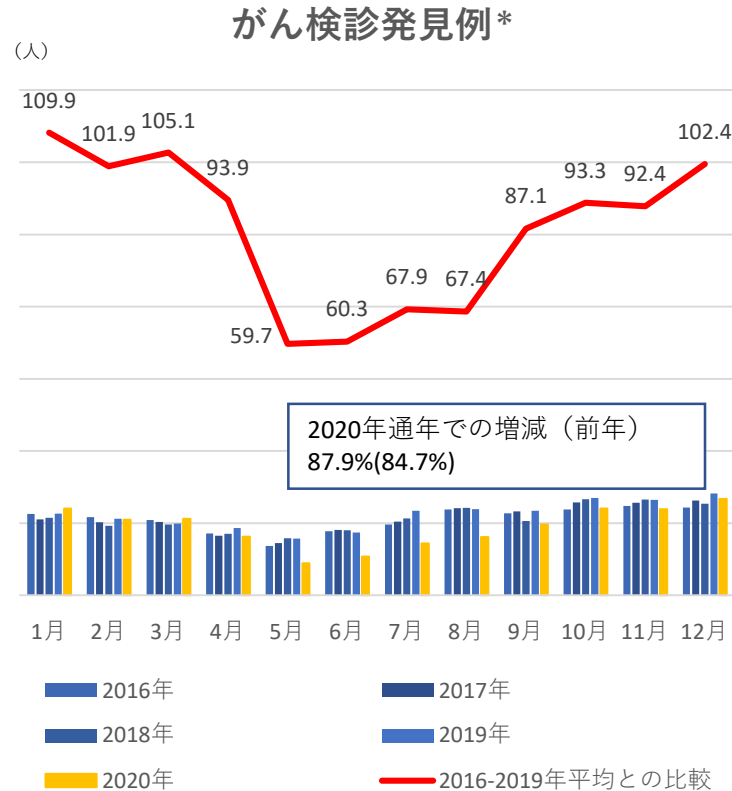
## 女性

(人)



	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
胃	17,984	19,384	20,156	21,138	22,458	22,619	23,045	22,667	22,766	22,226	23,237	20,337
大腸	26,354	29,208	31,528	33,691	36,929	37,884	40,121	40,444	40,744	41,104	44,229	41,786
肝臓	6,989	7,468	7,534	7,397	7,394	7,234	5,514	7,020	6,673	6,637	6,779	6,437
肺	16,558	19,345	20,369	21,608	22,762	23,988	25,078	26,291	27,471	28,308	30,571	28,994
乳房	47,167	54,231	57,148	60,309	64,552	66,069	71,216	72,231	72,397	75,173	82,445	78,954

# 発見経緯別がん登録数の推移：全がん（検診発見、年度比較）

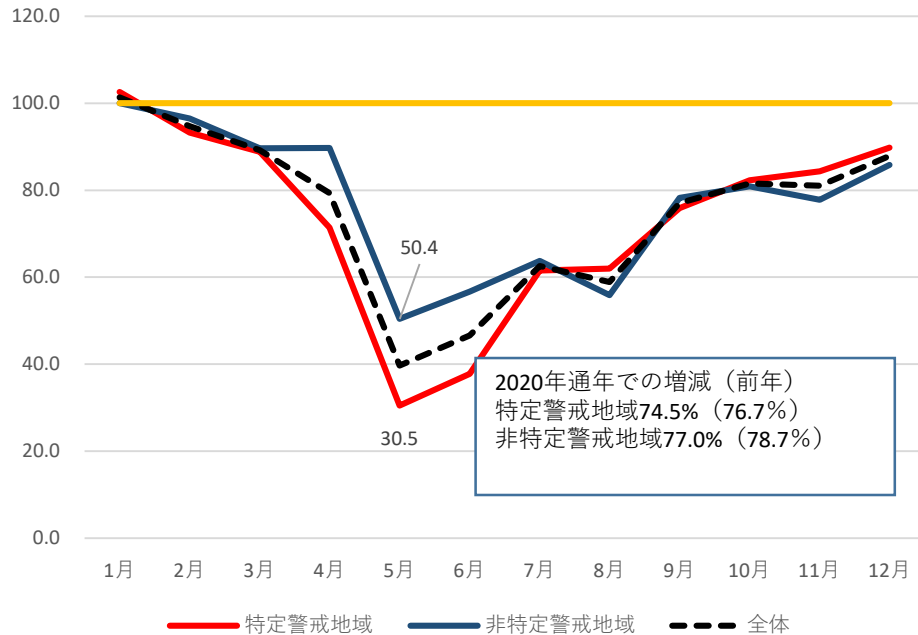


がん検診発見例\* : がん検診・健康診断・人間ドックなどによる発見例  
 がん検診等以外の発見例\*\* : 自覚症状および、他の疾患で経過観察中に実施された検査により偶然発見されたものなどによる発見例

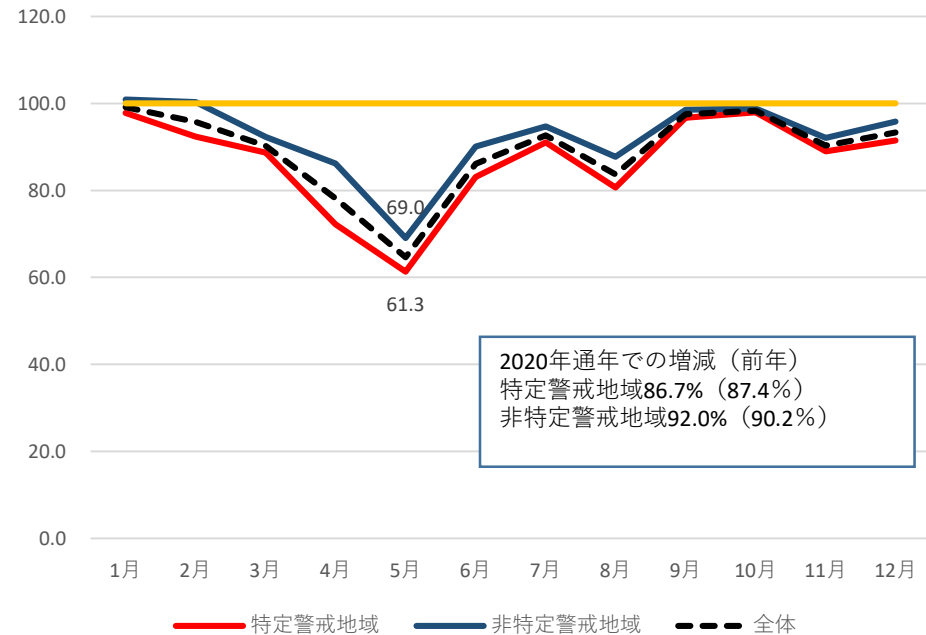
# 発見経緯別がん登録数の推移：全がん（検診発見、特定警戒地域\*）

## がん検診発見例

(%)

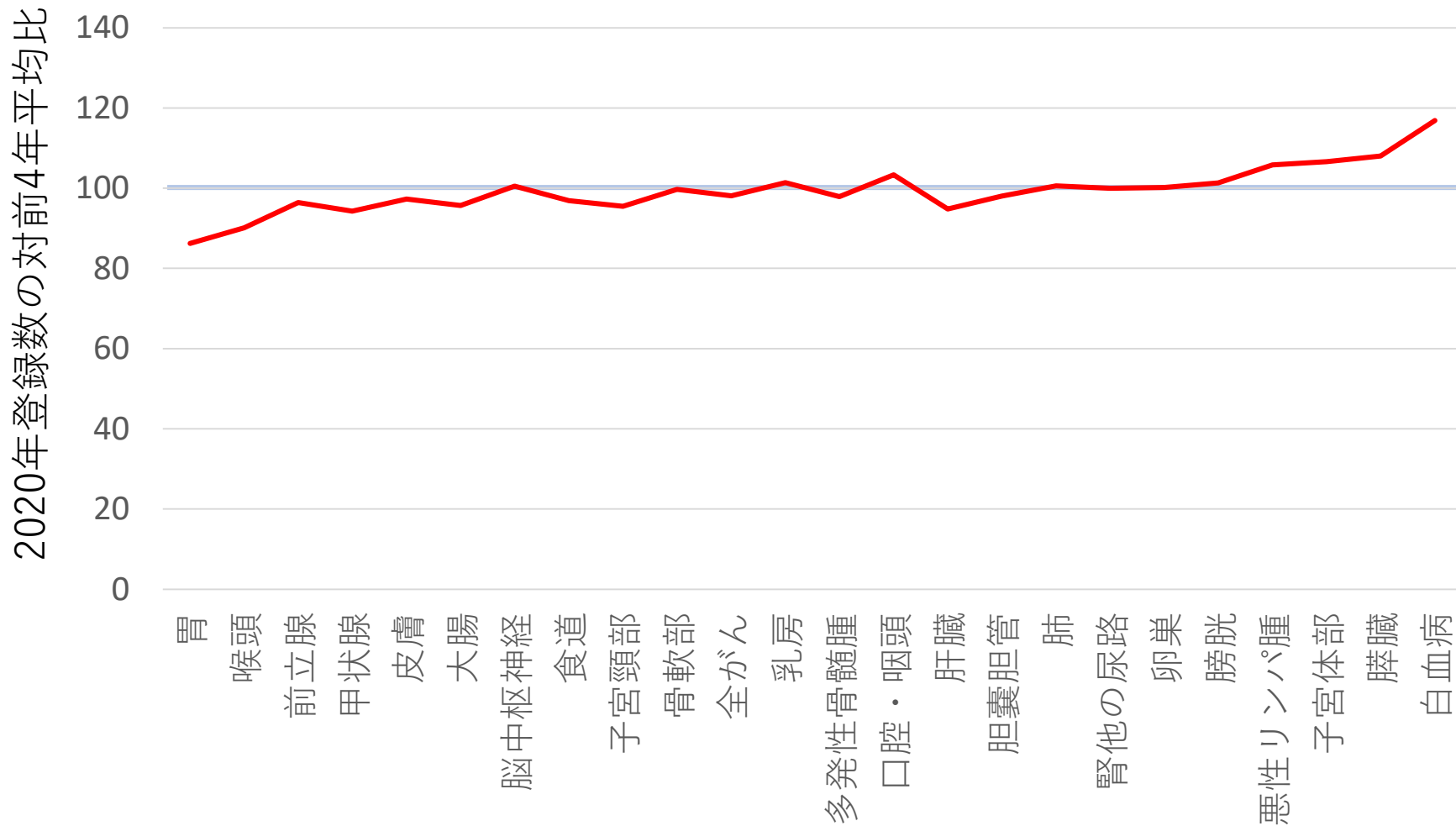


## がん検診以外の発見例



特定警戒地域\*：2020年4月から5月の緊急事態宣言下において、特に重点的に感染拡大の防止に向けた取組を進めていく必要があるとして、特定警戒都道府県として位置づけられた13都道府県（北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県）

# 2020年登録数におけるがん種別の増減率（対2016-2019年平均）





# がん診療連携拠点病院等におけるがん登録数への影響

- 院内がん登録実施病院863施設の全登録数は、前年度と比較し594施設で減少（平均4.6%減、がん診療連携拠点病院等では平均5.3%減）
- 男性は胃・大腸、女性は乳房・胃の登録数が減少、肝臓は男女ともほぼ横ばい
- 2020年の全登録数は、2016-2019年の4年平均と比べ14,046件減少（98.6%）
- がん検診発見数は、それ以外と比べ登録数の減少割合が大きい
- 特定警戒地域は、その他の地域と比べ一時的に大きく減少し、その後差は縮小
- 2020年の部位別増減率は、2016-2019年の4年平均と比べ胃・大腸・子宮頸・甲状腺・前立腺・皮膚などで減少

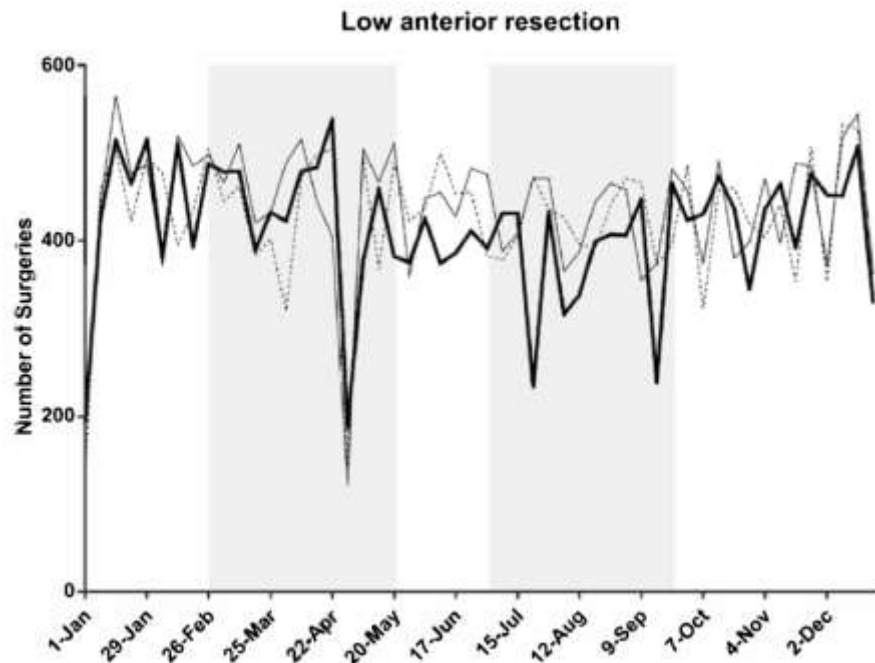
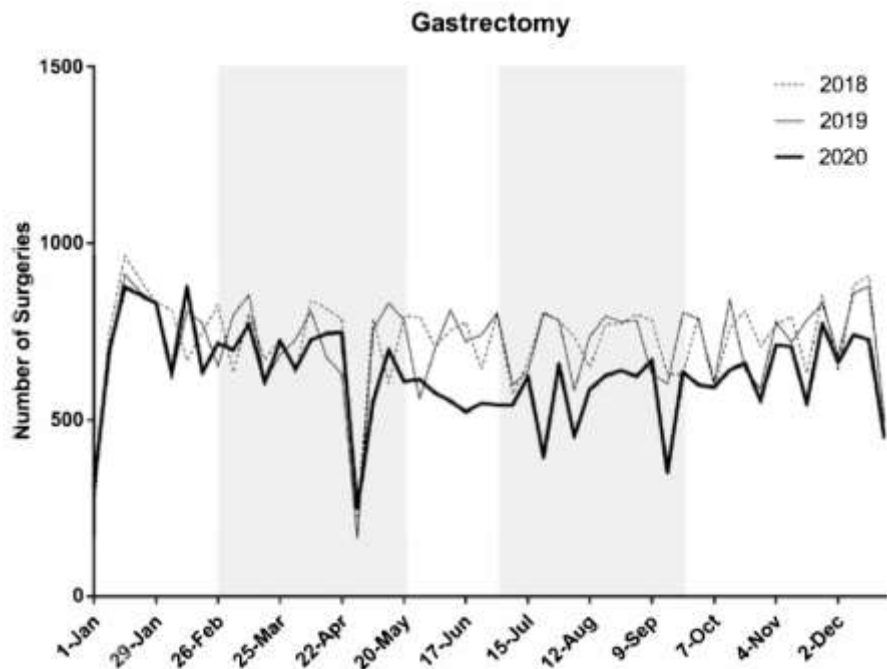
# 厚生労働省からの受診勧奨（令和3年11月26日プレスリリース）

## 「院内がん登録2020年全国集計」のポイント

- がん診療病院863施設（新規のがんの約72.5%をカバー）1,040,379例のデータを集計
  - 2020年の全登録数が、前年の登録数と比べて60,409件減少（平均4.6%減少）
- 
- 全登録数の減少は、がんの患者数そのものが減少したことに起因するものではない
  - 2020年5月にがん罹患者数は、対前年同月比で22.0%減少、その後は回復傾向
  - 同時期のがん検診受診者数は大幅に減少、その後回復傾向
  - 症状が少なく検診などでの発見率が高い、比較的早期のがんにおける登録数の減少率が高い
- 
- がん検診の受診や医療機関への受診が遅れないようにする事が重要
  - がん検診などの必要な受診は不要不急の外出にあたらさない

# NCD データ\*による外科治療数の解析（胃がん、直腸がん）

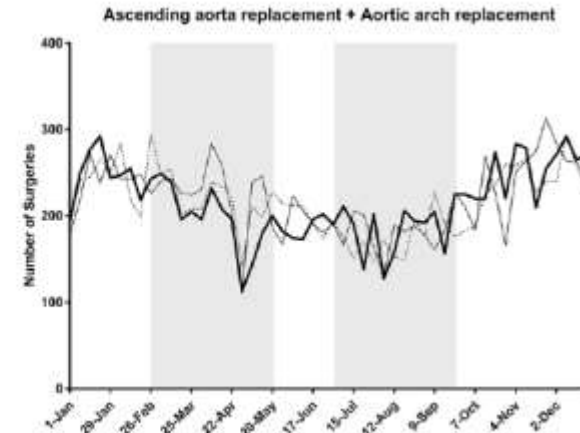
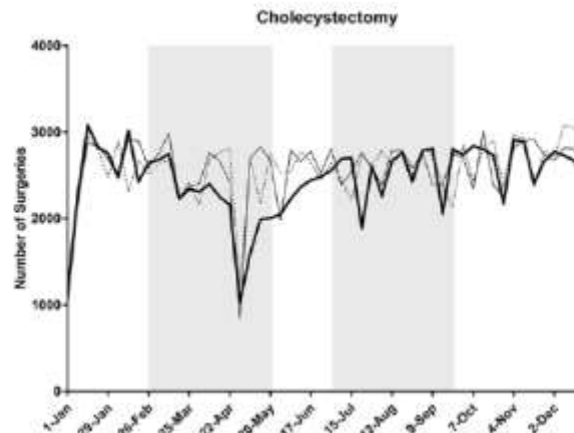
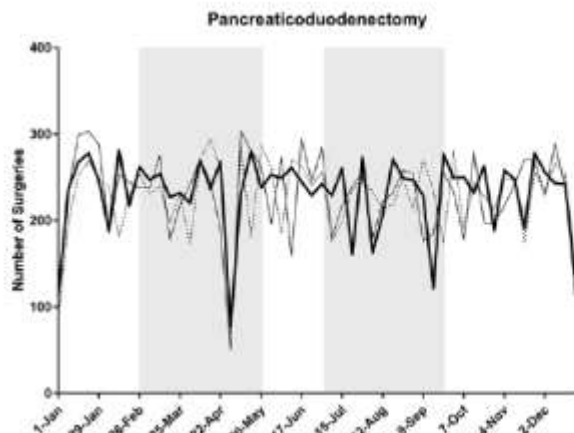
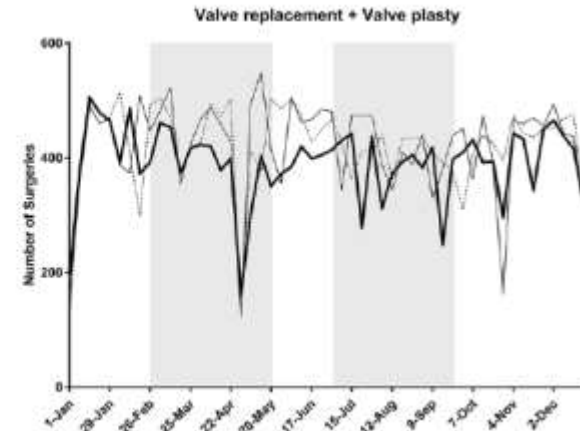
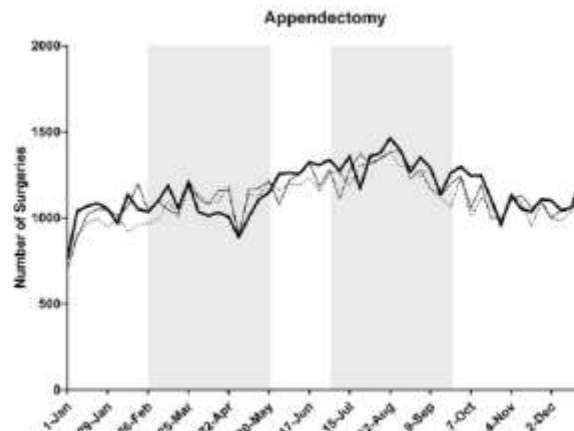
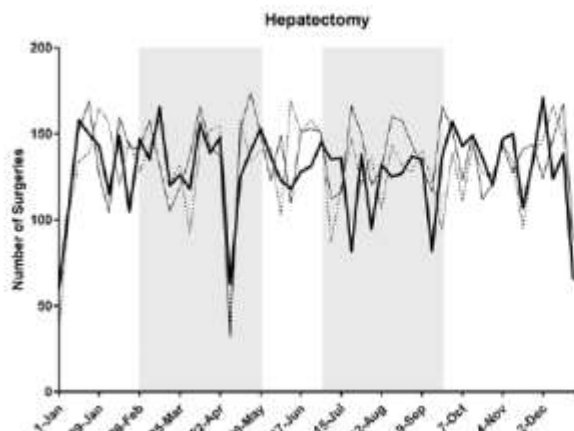
NCDデータ\*：国内の手術や治療に関する大規模データベースであり、5,000以上の施設から毎年150万件近くのデータが登録されている



出典：The impact of COVID-19 on surgical procedures in Japan: analysis of data from the National Clinical Database. Surg Today. 2021

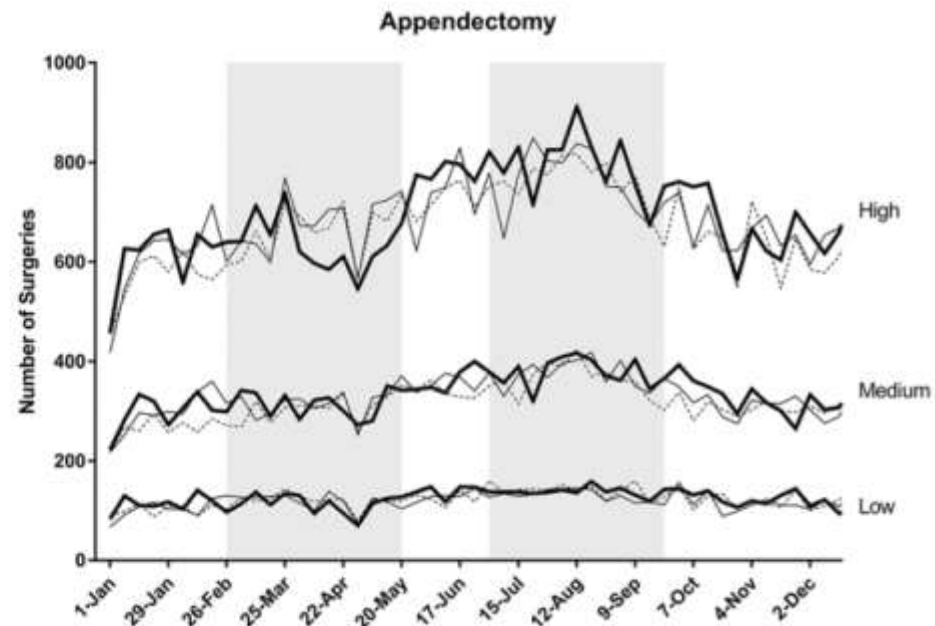
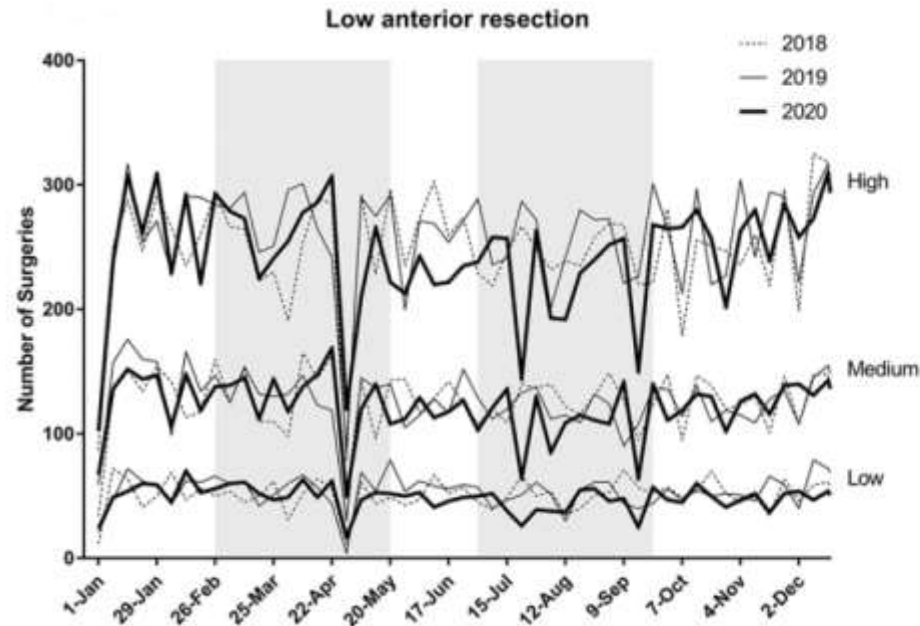
# NCD データによる外科治療数の解析

(肝がん、虫垂炎、弁置換形成術、膵がん、胆摘、大動脈弁置換術など)



出典：The impact of COVID-19 on surgical procedures in Japan: analysis of data from the National Clinical Database. Surg Today. 2021

# NCD データによる外科治療数の解析（直腸がん、虫垂炎：感染程度別）



感染程度高：東京、沖縄、大阪、北海道、神奈川、愛知、埼玉、兵庫、千葉、京都、福岡、奈良

感染程度中：上記・下記以外

感染程度低：秋田、鳥取、新潟、徳島、島根、岩手、香川、愛媛、山形、青森、山口、長崎、福井

出典：The impact of COVID-19 on surgical procedures in Japan:  
analysis of data from the National Clinical Database. Surg Today. 2021

# がん外科手術数への影響

- NCDデータによると、2020年の主要20外科手術数は前2年と比べ15%減少
- 胃がん、大腸がん、甲状腺がんほか小児鼠経ヘルニア、小児虫垂炎などが減少
- 膵がんのほか、成人虫垂炎、上行大動脈置換術などは変わらず
- 感染程度の高い地域は、他と比べ大きく減少

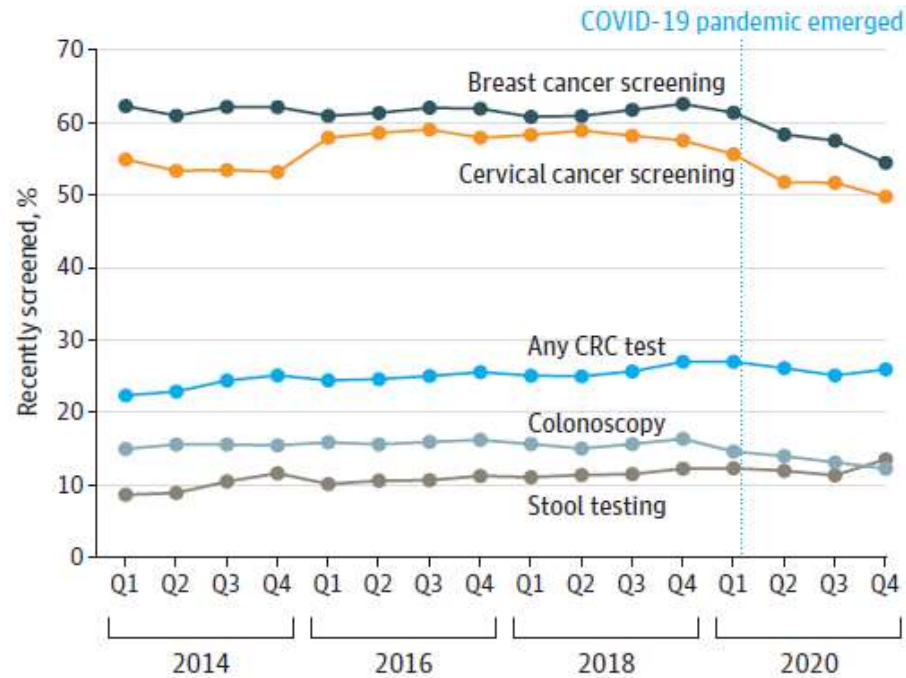


- 特に感染程度の高い地域において、症状のない疾患（検診に関わるがんを含む）ならびに緊急性が比較的低い手術数の減少が顕著

# 日本におけるがん検診・がん診療受診者数減少の要因

1. 緊急事態宣言に伴う政府や専門学会の通知
2. がん検診実施者（市区町村・保険者・事業主）による実施延期・中止
3. 感染の恐れによる検診および医療の受診控え
4. がん検診実施機関・医療機関のキャパシティー減少

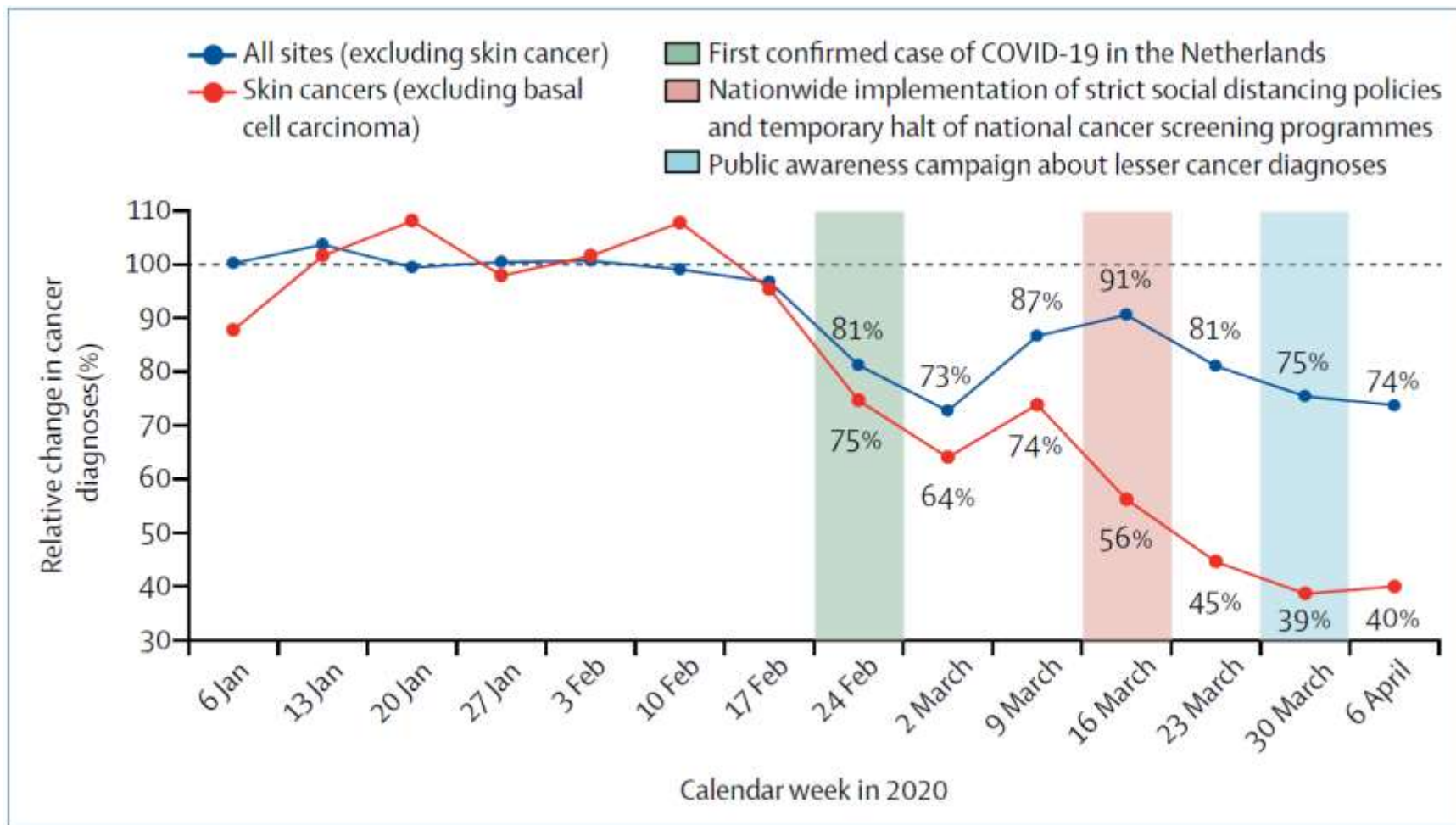
# 米国におけるがん検診受診者数の推移



- 米国CDCによる電話調査の結果によると、2020年は2018年と比べ、乳がん（計48万人が対象）は6%減、子宮頸がん（計30万人が対象）は11%減で、教育レベルや収入の低い人やヒスパニックにおける減少が大きかった
- 大腸がん（計85万人が対象）は全体として変わらなかった



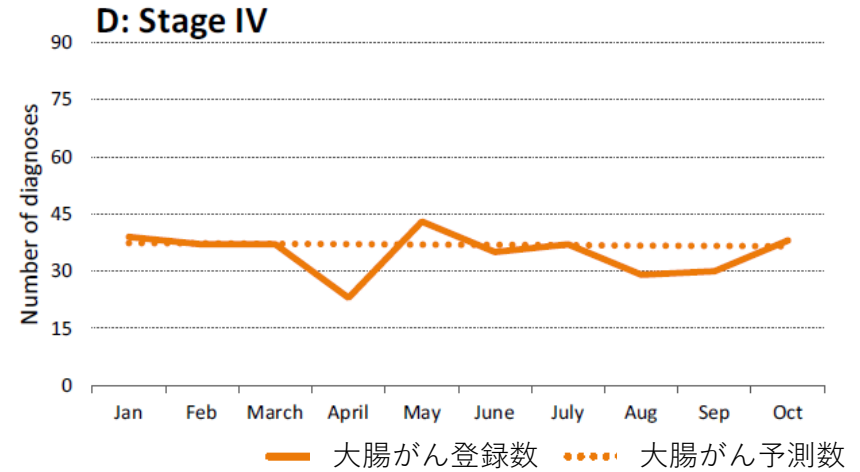
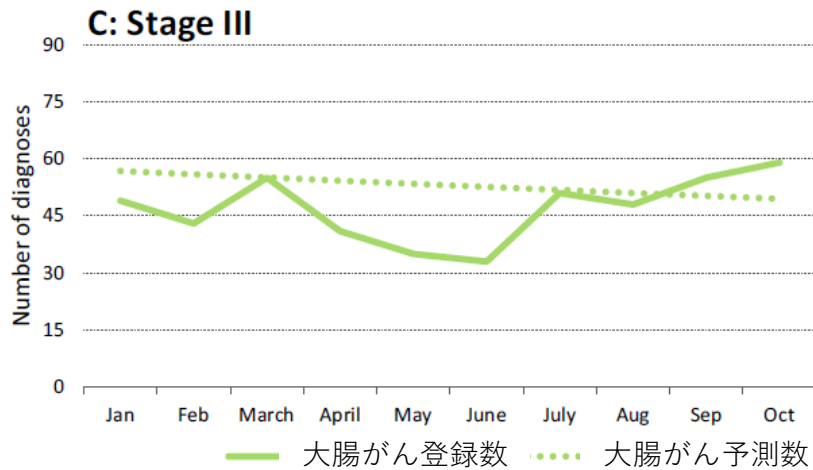
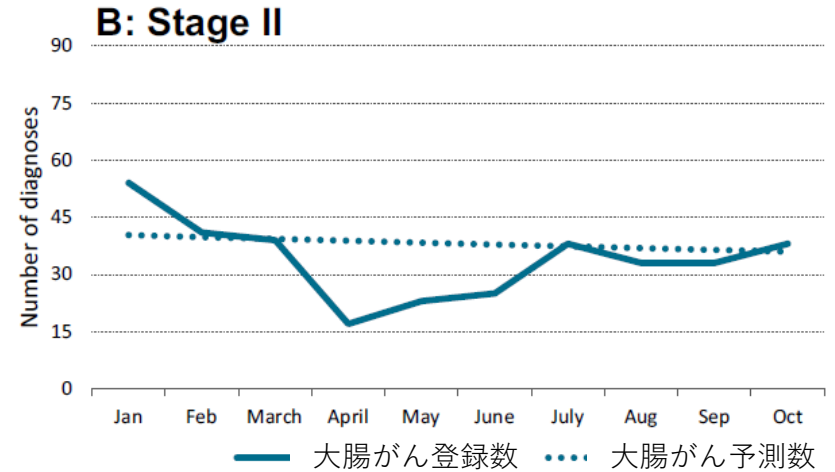
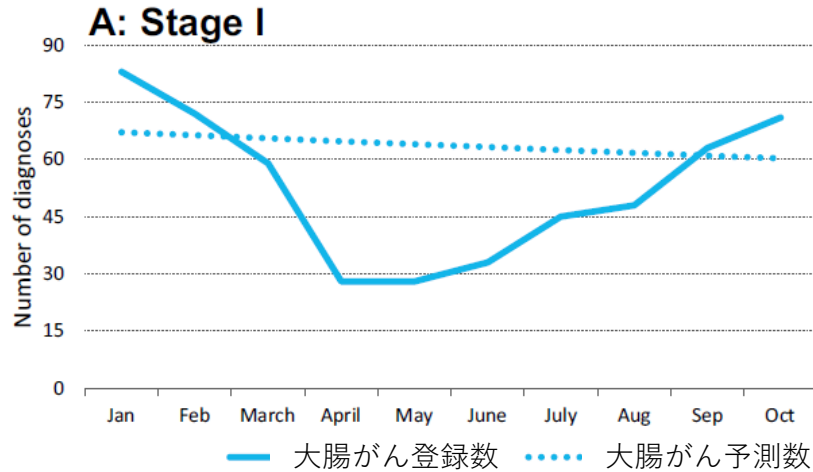
# オランダにおけるがん登録者数の推移（皮膚がん以外、皮膚がん）



- オランダにおけるがん登録者データによると、2020年2月よりがん登録者数が減少
- 特に皮膚がん（赤折れ線）が最も減少

出典：Fewer cancer diagnoses during the COVID-19 epidemic in the Netherlands.  
Dinmohamed AG, et al. Lancet Oncol. 2020

# オランダにおけるステージ別大腸がん登録者数の推移



- 大腸がん登録数は予測数と比べ、ステージ I は最大48%減、ステージ II は23%減、ステージ III は23%減、ステージ IV は5%減
- 2020年10月には登録数が予測数を上回った

# 日本におけるステージ別大腸がん登録者数の推移

大腸0期



大腸I期



大腸II期



大腸III期



大腸IV期



■ 2018年  
■ 2019年  
■ 2020年  
— 2018-2019年平均との比較

- 大腸がん登録数は2020年は2018-2019年平均と比べ、ステージ0は最大35%減、ステージⅠは30%減、ステージⅡは27%減、ステージⅢは27%減、ステージⅣは18%減

# 新型コロナウイルス感染症ががん診療に与える影響因子



## 診断・治療へのアクセスの減少

- 感染の恐れ
- 医療資源のキャパシティー減少
- 失業などによる経済的問題
- 緊急事態宣言による行動制限

## 診断の遅れ

- 治療法選択肢の減少
- より高度な治療法の選択

## 通常診療の遅れ

- 検診未受診
- 精検未受診
- 念のため受診の減少
- 定期通院の減少

## 治療の遅れ

- 治療の延期
- 治療法の選択肢の減少
- 適応外治療の増加

がん死亡率増加の懸念

# 新型コロナウイルス感染症による がん検診及びがん診療などへの国際的な動向

- がん罹患者数の減少（がん検診に関連するがんなど）
- 多くの国において、がん検診に関するサービスが中断
- 予定手術の遅延・中止
- 中・長期的ながん死亡率増加の懸念

## 研究班からの提案：今後の対応策

- モニタリングおよび分析の継続
- がん検診やがん医療へのアクセスの確保
- がん検診やがん医療に関する適切な情報提供
- 即時性のあるがん検診・がん罹患データ収集システムの構築